（3）おとりアユの危険性

放流種苗を介する以外に冷水病菌が河川に持ち込まれる危険性のあるのがおとりアユです。おとりアユも他県から持ち込まれるわけですが、「指針」では体表に異常があったり、元気のない冷水病が疑われるおとりアユを導入しない、また、販売しないことが重要としています。

さらに、遊漁者の皆さんにも是非守っていただきたいことは、おとりアユの移動はしない、すなわち、他の河川で買ったり釣ったアユは別の河川でおとりアユとして使用しないことです。併せて、釣ったアユやおとりアユはすべて持ち帰るようにしていただきたいと考えます。

（4）種苗来歴カードの活用

冷水病の被害を低減させるために最も重要なことは、どのような来歴を持つ放流種苗が良好な釣果や生産につながるのかということに放流する漁協が常々関心を持つことです。放流アユが種苗生産業者や中間育成業者でどのように飼育され、放流場所までどのようにして運搬されてきたのかを漏れなく

記録しているのが種苗来歴カード(P.13に一例を示します)です。アユ種苗の飼育業者が種苗の由来、飼育期間・水温、魚病の発生状況と処置、出荷時の大きさ等を記入し、種苗運搬業者へカードを渡します。運搬業者が輸送密度、所要時間、水温等を記入して放流する漁協へ種苗とカードを渡します。このカードには重要な情報が詰まっていますので内容を十分確認してください。もし未記入の項目や不明な点があれば生産業者や運送業者へ問い合わせてください。放流漁協は放流状況とその後の河川でのアユの様子や釣獲状況をカードに記録して、写しを海洋センターへ提出していただくことになっていますのでご協力をよろしくお願いします。

京都府内ではほぼ100%このカードの付いた種苗が放流されていますが、残念ながら全国的には普及率は約50%とまだ低い状況です。

種苗来歴カード

あゆ種苗来歴カード(例)

このカードは、アユ冷水病対策を目的に実施しているものです。正確な記入にご協力ください。

記載要領

○このカードは出荷種苗のロットごとに作成し、出荷種苗に添付して下さい。

○出荷種苗の種類や採捕・受入時期等が複数にわたっているものについても,該当する事項を全てチェックしてください。

○蓄養・育成期間については、そのロットの中で最も長い種苗のものを記入してください。

○このカードは,各段階において写しを保存し,放流者において水産試験場等に送付してください。

1 生産（生産者記入）

①種苗の種類

□人工産(経代飼育した親から採卵)　親の由来

□人工産(採捕した親から採卵)　親の採捕場所

□琵琶湖産　□海から遡上　□ダム・湖沼産

採捕場所

□その他

②採捕・受入・採卵の時期及びサイズ

月　日～　月　日、　g／尾

③蓄養育成時の魚の状態

冷水病　□発生しなかった　□発生した

他の魚病　□発生しなかった　□発生した

④種苗の冷水病の処置

□投薬(　回)　□加温処理　□無処理

⑤出荷時の状況

出荷　年　月　日、出荷量　kg (　尾)

出荷サイズ平均　g／尾

⑥その他(種苗の移動等があればわかる範囲で記入する)

記入者住所　生産者名　電話

2 中間育成生産（生産者記入）

①中間育成開始時期の密度・水温

kg／m³、　℃

②中間育成時の魚の状態

冷水病　□発生しなかった　□発生した

他の魚病　□発生しなかった　□発生した

③種苗の冷水病の処置

□投薬(　回)　□加温処理　□無処理

④出荷時の状況

出荷年月日　出荷量　kg (　尾)

出荷サイズ平均　g／尾

⑥その他(種苗の移動等があればわかる範囲で記入する)

記入者住所

生産者名

電話

3 種苗を放流するための輸送（輸送者記入）

①輸送密度・輸送時間（放流終了まで）

kg／m³、　時間　分

②輸送水温

出発時　℃、到着時　℃

③その他

記入者・輸送者名

4 放流（放流者記入）

①放流場所

河川名　水系名　地区名

②到着後から放流までの期間

□すぐ放流した　□ 蓄養　日後放流

③河川の状態

河川水温　℃

水量　□多い　□通常　□少ない

濁り　□ある　□少しある　□ない

④その他（魚の状況等）

記入者漁協名

立会代表者